

教育方針

学校教育目標

学ぶ楽しさを身につけた、思いやりと元気さにあふれた子どもを育成する

めざす児童像

- ① 手をとり合う、思いやりのある子ども
- ② がまん強く、たくましい子ども
- ③ 学ぶ力や可能性を伸ばし、努力する子ども

本年度の重点

- ① 学習に集中 (集中して学習する子どもの育成)
- ② 人に優しく (思いやりのある言動ができる子どもの育成)

特色ある教育活動

ESD・ユネスコスクールとしての取組

【実践1】4年生：守り継がれる文化財

◆紙芝居「手鎌お宝物語」を鑑賞する

◆手鎌校区の宝物をさぐる ー歴訪会、地域の方々とともにー

実際に各グループに分かれて、地域の方々に案内してもらい、

- ①お寺道、②お籠通り、③くじらのほね、④甘木山古墳群、⑤小学校跡と円光寺、⑥親子地蔵、⑦深倉天満宮などを調べる。

手鎌校区にはたくさんの宝物があることや、地域の方々が大切に宝物を守り継いでいることを理解する。

◆画集をつくり発表する

自分たちも地域の宝物を守り継いでいこうという思いをもとに画集を作り、下学年に紹介する。



<校区の宝物探検>

【実践2】5年生：郷土の伝統を調べよう

◆「がたいね踊り」「黒崎の歴史」を学ぶ

地域の保存会の方々から「がたいね踊り」や「黒崎の歴史」についての紙芝居や踊りを実際に見せていただき、「がたいね踊り」が、干拓工事の時に頑張った女性（がたいねさん）の作業唄でユーモアたっぷりに表現されていることを理解する。

◆「がたいね踊り」を発表する

手鎌地区公民館で毎年開催されている「ふれあい文化祭」において、総合的な学習の時間に取り組んだ「がたいね踊り」を大牟田市内・地域の方々へ発表して、地域の伝統の良さを知り、みんなに伝える。地域の方々にとっても子どもたちの踊りを楽しみにしておられ、地域と学校のふれあいの場となっている。

◆「黒崎串だごづくり」を実践する

歴史と里山の会、がたいね保存会、地域の方々と自分たちが収穫した米を米粉にして、蒸しあんこを丸めて「黒崎串だご」を作り、「黒崎串だご」は地域で継続されみんなに親しまれていることを理解し、その伝統と歴史の価値を知る。



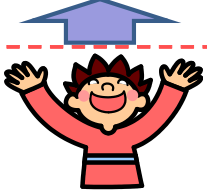
<郷土の伝統文化：「がたいね踊り」>

フィールドワークや地域の人々の姿から、地域の歴史・文化の価値、歴史・文化を築き上げた先人の努力の価値、歴史・文化を守り継いでいくことの価値を、子ども達は感じ取っている。そして、本物との出会いや人々の姿に触発され、自分達にもできることはないかと考え、実行しようとしている。

このような体験的・探究的な学びが、社会に対して自分達に何ができるのかということを考え、実践する機会となり、社会の担い手としての資質を育てる場となっている。

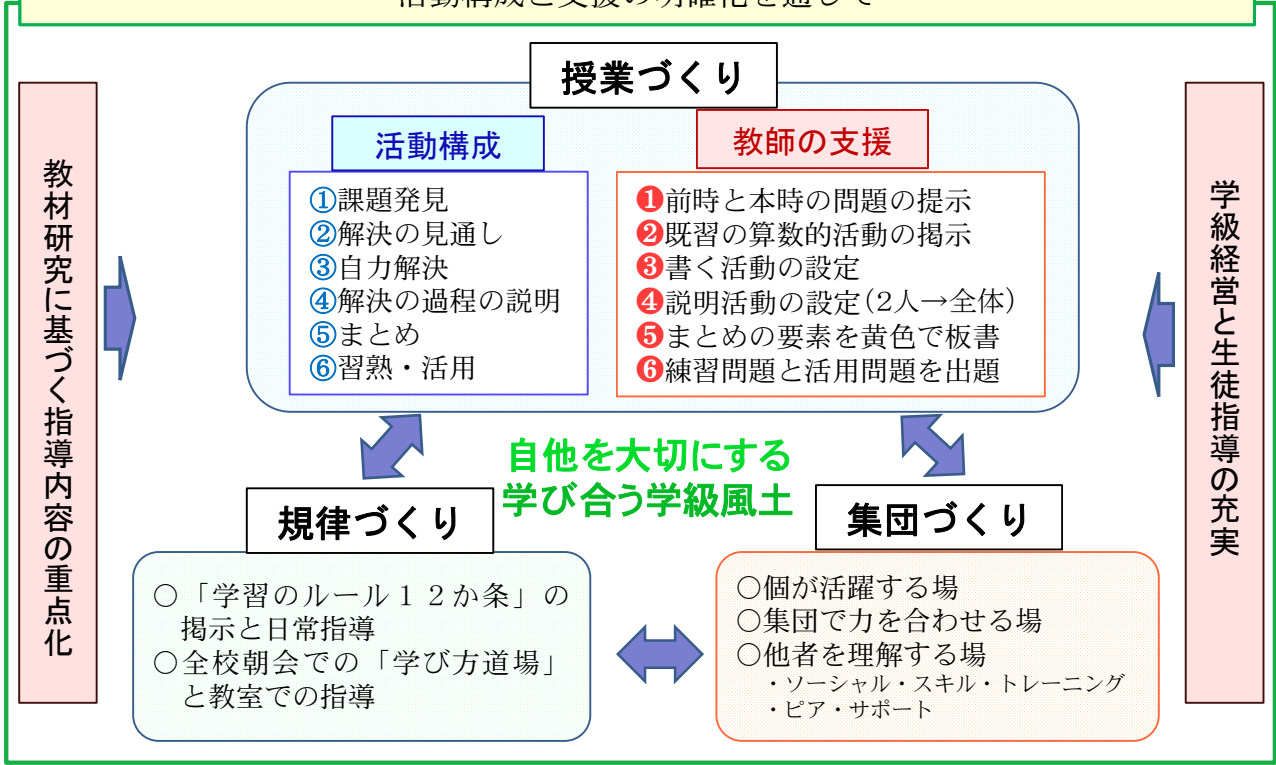
【学校教育目標】
 学ぶ楽しさを身につけた、思いやりと元気さにあふれた子どもを育成する

できないことができるようになった。
 新しいことが分かった。
 学習の進め方が分かった。



みんなにうまく説明できた。
 友達と協力して学習できた。
 友達のよいところを発見できた。

【研究主題】
 主体的・協働的に学び、分かる喜びを味わう算数科学習の指導
 ～活動構成と支援の明確化を通して～



児童数・学級数 (平成28年5月1日現在)

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	なかよし	合計
学級数	3	2	2	2	2	3	2	16
児童数	79	56	62	71	66	75	3	412